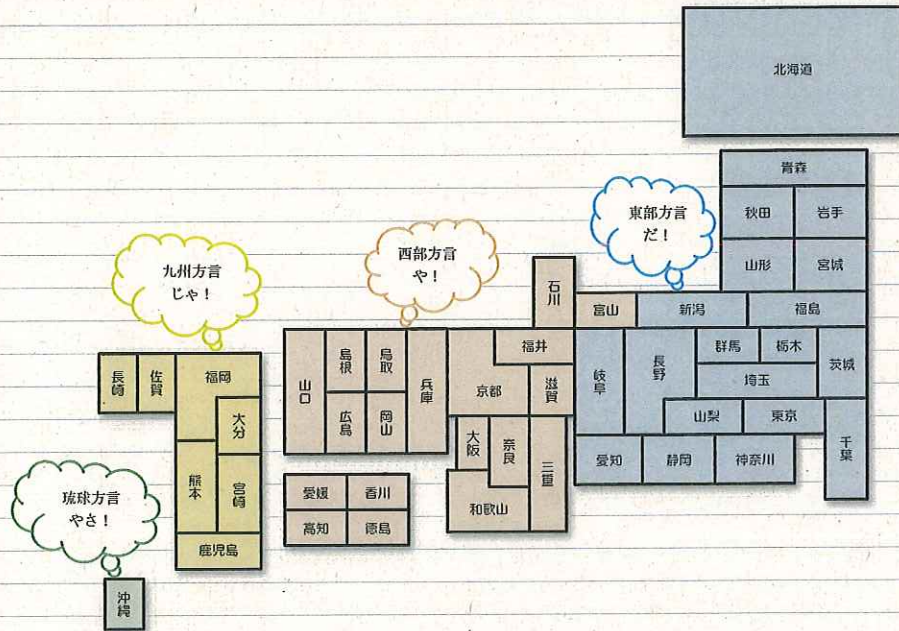


石岡市立ふるさと歴史館第17回企画展

# ごじゃっぺ・いがっぺ・そうだっぺ

—茨城弁と石岡地方の方言—



石岡市立ふるさと歴史館 第17回企画展

# ごじゃっぺ・いがっぺ・そうだっぺ

—茨城弁と石岡地方の方言—

## ■目次

はじめに …①

あらためて標準語にて …②

1 「共通語」と「標準語」～方言を考える前に～ …③

2 方言とは… …④

3 東と西の言葉の違いとその境界線(1) …⑦

東と西の言葉の違いとその境界線(2) …⑨

4 日本方言の歴史～東西の境界がひしめく地域～ …⑫

5 茨城の方言とは… …⑬

6 茨城の方言あれこれ …⑮

7 石岡地方の方言 …⑳

8 方言のゆくえ …㉑

おわりに …㉒

## ■例言

本冊子は、平成31年2月7日(木)～5月6日(月)を会期として開催する、石岡市立ふるさと歴史館第17回企画展に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課(箕輪健一)が行いました。

平成31年2月23日(土)午前10時30分から、展示解説を行います。

## 平成31年2月7日(木)～5月6日(月・祝)

■午前10時～午後4時30分 ■入場無料

■月曜日休館(祝日の場合は翌日) ※3月7日(木)臨時休館

■展示解説 2月23日(土)午前10時30分～

担当職員が展示内容を解説します(30分程度)。申し込み不要。

直接ふるさと歴史館にお越しください。

### 石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社一丁目2番10号(石岡小学校敷地内) ☎0299-23-2398



おめーらよぐ来たな。今度はよ、茨城弁とこごらの方言のごどやっかん。俺らがいづも使ってる言葉は、東京あだりの言葉だっぺよ。んだけんと、方言ちゃ、日本のながで、あっちにもこっちにもあって、いづも俺らがよーぐそごらで喋ってる言葉なんだ。んだがら、そーた言葉は普通書くごどなんちゃねーもん、じいさま・ばあさまが話してんの聞いて覚えで、そんで孫らもだんだんに覚えんのよ。ガギめらは、保育園、幼稚園あだりながら、中学校さ上がるころまでに、はーだいたい言葉覚えんだちけな。方言もおんなじ頃覚えんだっぺ、おそらく。んでもそれは、やっぱりうちん中で、よーぐ普段会話がねーどだめなんだわ。んだがらそう考えっと、方言ちゃ、目ではめーねー宝物なんだっぺよな。

んだけんとも、今のわけーしらが方言喋ってんの、そーたに聞かねーがんな。そのうち忘れられっちまーべよ。まあそーたごどもあって、今度は、方言をこごらの文化・歴史だど思っで、どーた方言があんだが、おめらによーぐおせーっから。そんで、こごらの方言のごど、一回よーぐ考えでみっぺよ。頼むど。

みなさんようこそ。今回は、茨城弁と石岡地方の方言についての企画展です。私たちが日常使用している言葉は、「標準語」といわれる、いわば東京を中心とした言葉です。一方、方言は日本国内のあらゆる地域に存在し、生活に根差した話し言葉です。そのため、方言は文字で書かれることはほとんどなく、親から子へ、子から孫へと代々口伝によって継承されてきたのです。子どもの言語認識とその発達は、5、6歳の幼少期から13、14歳くらいまでの間にほぼ確立するとされ、方言の認識もほぼ同時期で、家族間のコミュニケーションの度合いが大きく左右します。こうして考えると、方言は、無形の文化遺産と言えるのかもしれませんが。

近年、こうした方言を特に若い世代から耳にすることはなく、いつしか忘れ去られてしまうのではないかという不安さえ感じます。そこで、今回の展示では、こうした方言を地域の歴史・文化としてとらえ、茨城弁と石岡地方の方言を紹介し、改めてみなさんと郷土の方言について考えてみたいと思います。展示パネルでのアンケート調査にも、ぜひ御協力ください。



# 1. 「共通語」と「標準語」

## ～方言を考える前に～

さて、方言について考える前に、私たちが公共の場で使用している言語についてみていきます。標準語と似た言葉に「共通語」があります。両者の違いは、何でしょうか。

共通語は、ある地域や集団間で共通に使用される言語です。歴史上世界的には、漢文・サンスクリット語・ラテン語・アラビア語などを使用する文化圏がありました。21世紀の現代では、英語が国際的な共通語となっています。

一方、標準語は、「一国の規範となる言語として、公用文や学校・放送・新聞などで広く用いられるもの」(『広辞苑』第8版)とされています。標準語の成立は、明治時代になってからのことで、近代統一国家の道を歩む中で、言語の統一が明治政府の中心課題のひとつになったためです。その標準語の基礎となったのは、東京山の手の中流階級層が使用する「東京方言」でした。つまり、日本の標準語は、明治政府によって一地域の方言がスタンダード化されたわけです。かつては、関西弁、特に京都弁が日本語の中心的役割を果たしていました。もしも、東京遷都がなかったら、京都弁が日本の標準語になっていたかもしれません。最近では、「標準語」は、「共通語」とも呼ばれています。

# 2. 方言とは……

標準語が成立する以前、日本の言語は、一つの言語において、様々な地域的差異が存在していました。音韻・語彙・文法・アクセントがそうした要素にあたり、これらの違いが反映された話し言葉(口語)が方言と言えるでしょう。

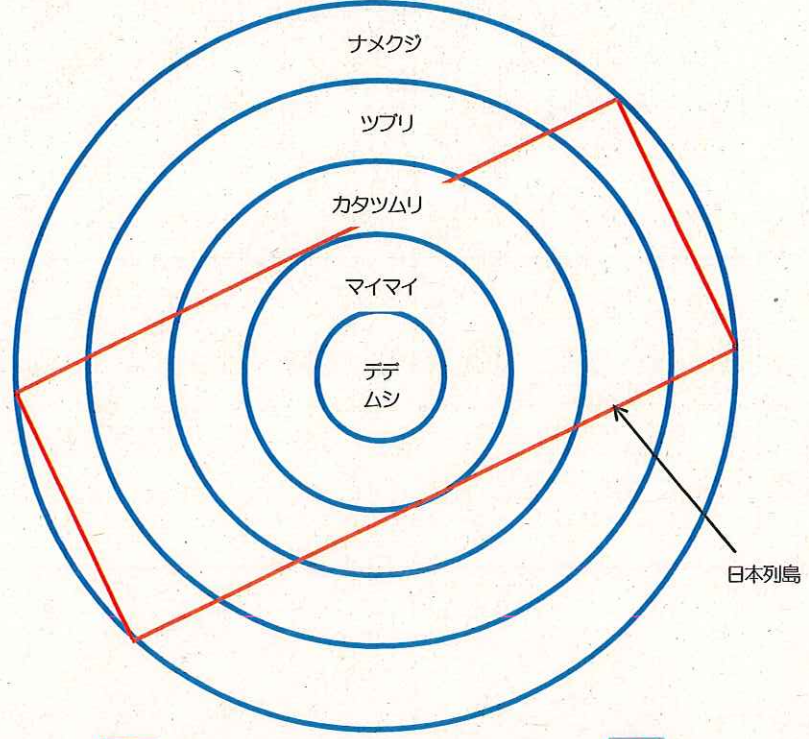
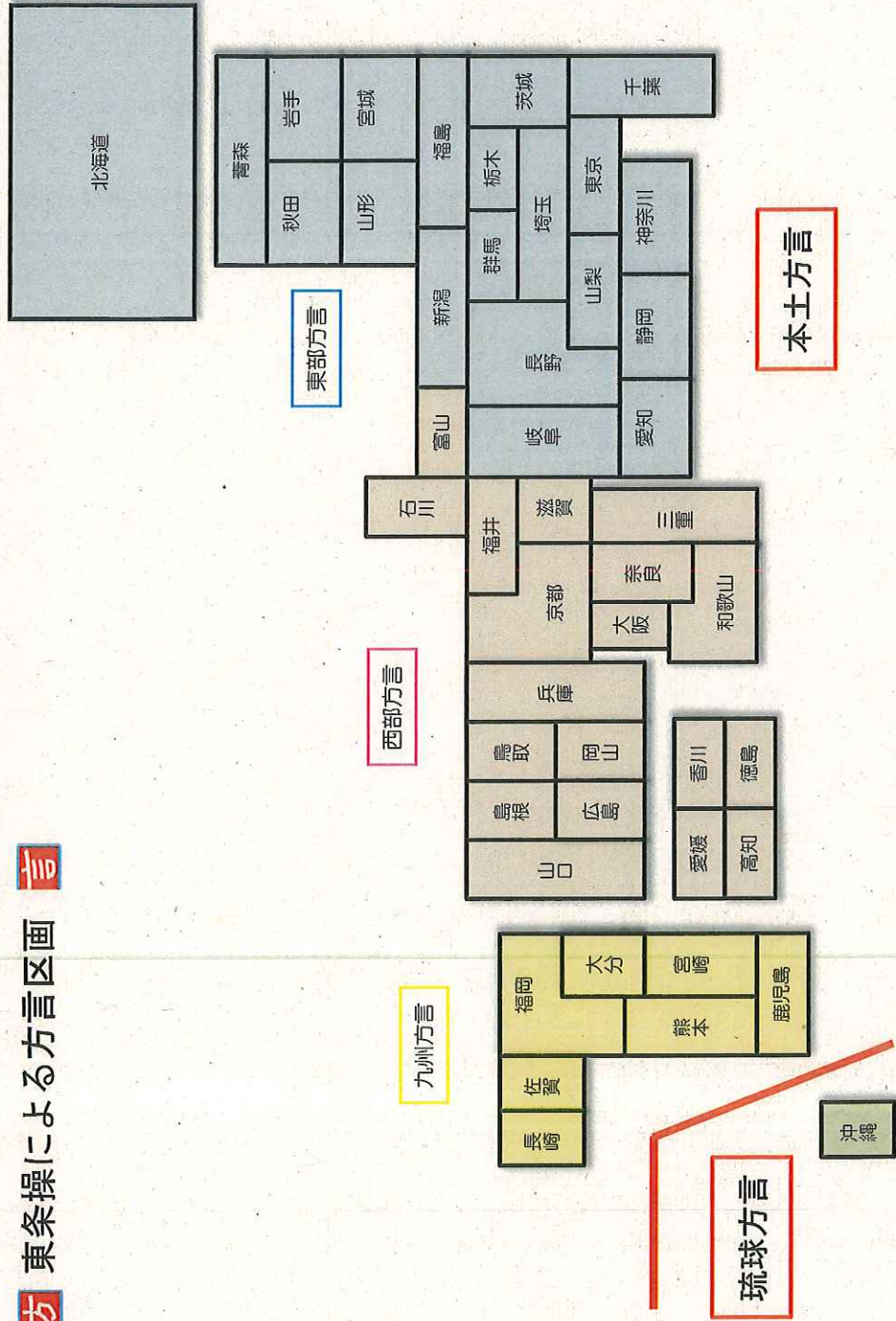
島国である日本列島の方言は、まず大きく本土方言と琉球方言とに分けられ、本土方言は、さらに東部方言・西部方言・九州方言の三つに分類されます。これは、方言研究の先駆者・東条操氏によって明らかにされた「方言区画論」で、音韻・文法・語彙の分布とアクセントの分布を総合して考えられたものです。この研究成果は、現代においても方言研究の基礎となっていますが、金田一春彦氏は、方言の区画を立てるとき、方言の「体系の根幹をなす部分」を基準にするべきであると述べています。金田一氏は、その根幹をアクセントであるとし、日本列島の方言を内輪方言・中輪方言・外輪方言の三つに分類しています。

方言は、口語を中心とした言語文化の違いであることから、研究者によって様々な考え方があり、分類にあたっては一筋縄ではいかないようです。

なお、民俗学者・柳田国男が、その著書『蝸牛考』の中で説いた「方言圏論」は、現在でも有名な学説です。



方言 東条操による方言区画



方 柳田国男の方言圏論 方

【方言圏論とは・・・】

民俗学者・柳田国男が提唱した、方言分布拡大時の解釈における仮説。柳田は、「蝸牛（がぎゅう）」を指す方言が、近畿地方では「デデムシ」、中部・中国地方で「マイマイ」、関東・四国地方で「カタツムリ」、東北地方と九州の一部で「ツブリ」、東北地方北部と九州地方西部では「ナメクジ」とそれぞれ異なる点に着目し、近畿地方を中心として、日本列島内で同じ方言が同心円状に分布することに気がきました。かつて文化的中心地であった京都では、古い順からナメクジ、ツブリ、カタツムリ、マイマイ、デデムシという順で方言が変化していったことから、その時間と比例して日本列島に放射状に拡がっていったと考えました。つまり、方言が文化的中心地から同心円状に分布する場合、同心円の中心地から周辺に向かって伝わっていったとする説です。



### 3. 東と西の言葉の違いと その境界線 (1)

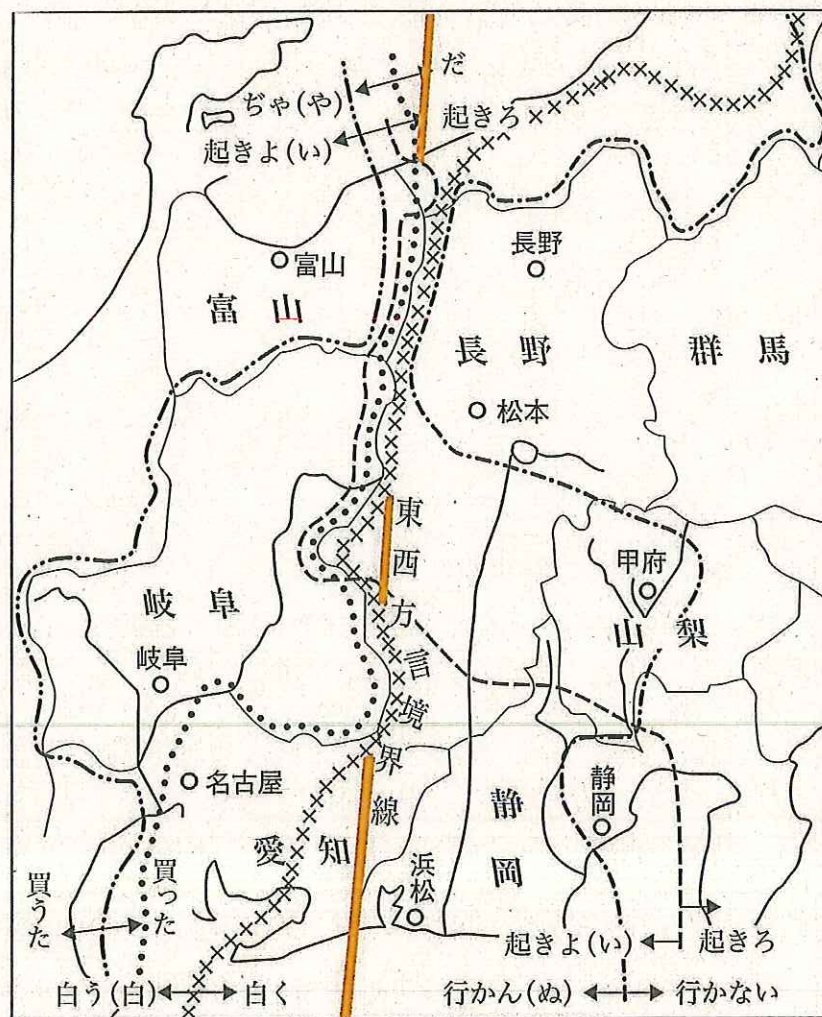
標準語の確立をめざしていた明治政府は、富国強兵を果たし、海外に植民地を手に入れることで、その地の住民に日本語を教育する必要がありました。しかも、その日本語は、「標準語」でなければならなかったのです。言語の統一を図るため、政府は日露戦争の真っただ中に、当時の日本語の使用状況調査を行っていました。

1905年(明治38)に『音韻調査報告書』と『音分布図』が公刊され、翌年には『口語法調査報告書(上・下)』と『口語法分布図』が続いて公刊されました。これらの調査は、日本語を統一するための調査でしたが、図らずも言語の東西の違いが浮かび上がるという結果となりました。当時の報告書には、その違いが次のように記されています。

仮ニ全国ノ言語区域ヲ東西ニ分カントスル時ハ  
大略越中飛騨美濃三河ノ東境ニ沿ヒテ其境界線ヲ  
引キ此線以東ヲ東部方言トシ、以西ヲ西部方言ト  
スルコトヲ得ルガ如シ

もし、全国の言語区域を東西に分けようとする、おおよそまかに越中(富山県)・飛騨(岐阜県)・美濃(岐阜県)・

三河(愛知県)の東の境に沿って境界線を引いて、これより東側を東部方言とし、西側を西部方言とすることができる、としています。これは、当時の語法からみた東西区分の結果ですが、現代の研究においても、東西言語の境界線は、引き継がれているようです。



語法からみた東西区分 (『岩波講座 日本語 11 方言』より)



### 3. 東と西の言葉の違いと その境界線 (2)

国語学者の大野晋氏は、その著書『日本語の起源』の中で、東条操氏が提唱した「方言区画論」をもとに、本州東部方言と西部方言の境界線を中部地方の内部、または中部地方と近畿地方との境に求められるとしました。例えば、語法的に見ると……

「シナケレバ」⇔「セネバ」、「行かない」⇔「行カン」

「シナイ」⇔「セン」、「雨だ」⇔「雨ヂャ」「雨ヤ」

「白ク」⇔「白ウ」、「受ケロ」⇔「受ケヨ」

というような二つの対立した語法の境界線は、長野県の西境を通る点で一致するとしています。また同じく、

「払ッタ」⇔「払<sup>はろ</sup>オタ」、「買ッタ」⇔「買<sup>こ</sup>ウタ」

の対立は、新潟県から富山県、石川県・福井県の南境と、岐阜県の北西の県境を通過して伊勢湾に入る、としています。

さらに、大野氏は、東西方言の発音の特徴にも注目しました。東部方言は、①子音が強くて長い、②母音が弱くて短い、というような発音上一定の傾向があるとしています。

例えば……

「白ク」は「白ウ」とは言わず、「出シタ」は「ダイタ」と

は変化せず、「シロク」「ダシタ」となるのは、子音を強く長くはっきりと発音するためであるとしています。また、「ウソッパチ」「スッパダカ」「ブットバス」などの促音を多用する傾向もあるといいます。

一方、西部方言は、子音が短く弱く、母音が長くて東部方言よりは、母音的な発音であるとしています。

こうした点から、岐阜県・愛知県から東の東部日本は、子音的言語の区域で、富山県・石川県・福井県と近畿地方から西の西部日本は、母音的言語の区域となります。さらに、日本語のアクセント体系は、東京式と京都式に分かれるとし、その東西の境界線も子音的言語と母音的言語の境界線と一致するとし、この境界線は言語学的に極めて重要なラインであると指摘しています。

ちなみに、今から約30年前、ある民放テレビ局が行った日本全国アホ・バカ調査をご存知ですか。この調査は、そもそも視聴者からの投稿で、大阪出身の男性が東京出身の妻とケンカをした際に、自分は「アホ!」、妻は「バカ!」とお互いに使い慣れない言葉で言い合いになり、アホとバカの境界を調べてほしい、というのが番組のきっかけだったようです。アホとバカの境界を調査するうちに、中部地方で新たに「タワケ!」と遭遇することで、アホとタワケの境界線を追い求めた結果、岐阜県・愛知県と滋賀県・三重県の間でほぼ分かれることがわかったようです。これは、大野晋氏が指摘した境界線と重なり、とても興味深い調査結果です。



# 4. 日本の方言の歴史

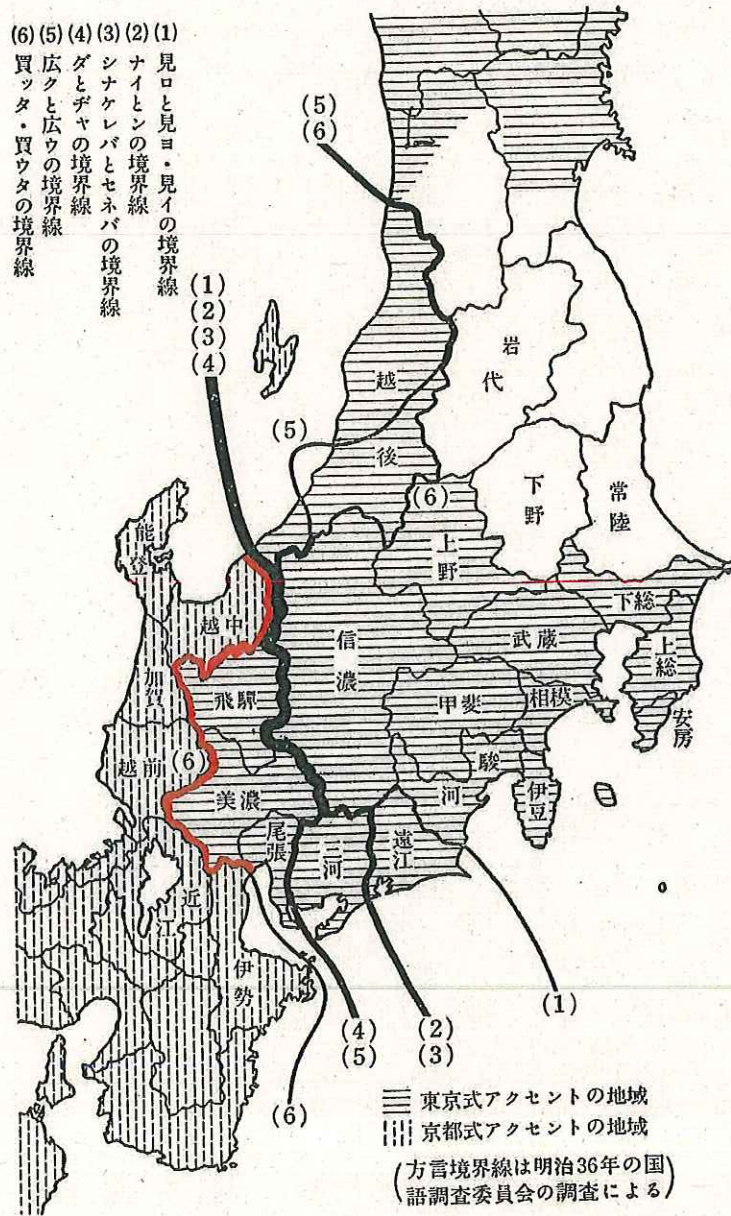
## ～東西の境界がひしめく地域～

ここでは、方言の歴史を知るうえで貴重な資料を二つご紹介いたします。

1577年（天正5）に来日したイエズス会宣教師ジョアン・ロドリゲスは、『日本大文典』という日本語研究の書物を著しました。この書物には、当時の標準語であった京都弁を記録として残したのですが、同時に方言についても次のような記述があります。

「三河から日本の涯<sup>はて</sup>に至る東の地方では、一般に物言いが荒く、鋭くて、多くの音節を呑み込む。この地方の人によってしか理解できない独特で粗野な語が多い」  
ここでは、「三河から」という点に注意が必要です。

また、平安時代初期に書かれた『東大寺諷誦文稿<sup>とうだいじふじゆもんこう</sup>』という書物には、「毛人方言、飛騨方言、東国方言」の三つの方言があると記載されています。ここでは、東国方言と並んで飛騨方言が挙げられている点が注目されます。先の三河（愛知県）とともに、飛騨（岐阜県）は、大昔から方言の東西境界がひしめく地域として、認識されていたのではないのでしょうか。





## 5. 茨城の方言とは……

それでは、次に我が茨城県の方言・茨城弁についてみていきましょう。まずは、茨城弁のイメージから……。

### ①茨城弁のイメージ

茨城弁のイメージは？と聞かれたら、皆さんはどう答えますか？茨城弁は、福島県や栃木県の方言に通じるものがあるといわれています。一般的に茨城弁は、無アクセントで雪崩式、語尾上がりで早口、という評価を受けています。また、まるで怒っているかのように聞こえ、怖いというイメージもあるようです。普段から使っている方は、気が付かないかもしれませんね。

### ②茨城弁の特徴

茨城の方言と民俗語をくまなく調査した赤城毅彦氏によると、茨城弁には、大きく次の五つの特徴があります（赤城毅彦『茨城方言民俗語辞典』）。

#### ■「イ」と「エ」の混同

「イ」と「エ」に区別がないということです。例えば、「駅」と「息」はともに「iki」、「海老」は「ibi」、「鉛筆」は「inpitsu」、「江戸」は「ido」という具合です。

#### ■カ行・タ行の濁音化（有声化）

カ行音とタ行音が濁音に変化することです。例え

ば、「バカ」は「バガ」、「坂」は「サガ」、「見た」は「ミダ」、「餅」は「モチ」となりますが、語頭にくるカ行・タ行音は、なぜか濁音にはなりません。例えば、「鍵」は「カギ」で「ガギ」とはなりません。「ガギ」では子どもを意味する言葉に変化してしまうからです。よって、カ行・タ行音の濁音化は、語中・語尾にある場合だけとなります。※ガバン（カバン）は、例外。

#### ■ジ・ズ・ビ・ブの清音化（無声化）

逆に、ジ・ズ・ビ・ブの濁音が清音化する現象です。例えば、「1時間」は「イチチカン」、「短い」は「ミチカイ」、「恥ずかしい」は「ハツカシイ」となります。また、濁音が半濁音化するものもあります。「カビてる」は、「カピてる」、「錆てる」は「サピてる」、「座布団」は「ザプトン」という具合です。

#### ■無アクセント化

同音異義の言葉であっても、音の高低による区別がないことです。例えば、「橋」と「箸」、「切る」と「着る」、「神」と「髪」、これらはすべて無アクセントとなります。標準語であれば、「橋」は「○●」、「箸」は「●○」と●印の部分強い拍で発音しますが、茨城弁ではその区別がないのです。

#### ■敬語・男女差の喪失

敬語と男女差がないことです。相手が年上であっても敬語を使う習慣はなく、女性でも自分を「オレ」「オラ」と呼ぶことは、男女差がないことを表わしています。



## 6. 茨城の方言あれこれ

それでは、次に豊富な茨城の方言についてご紹介します。  
みなさんは、どのくらいご存じで、普段どのくらい使っていますか？

|    | 茨城弁 (方言) | 意味             |
|----|----------|----------------|
| 1  | あーたに     | あんなに           |
| 2  | あおなじみ    | 青あざ、打たれた時のあざ   |
| 3  | いぎもねー    | 無益、利益にならない     |
| 4  | いしこい     | 悪い、醜い          |
| 5  | いじゃげる    | いらいらする、腹が立つ    |
| 6  | いしやる     | 退 (ど) く        |
| 7  | うっちゃる    | 放っておく          |
| 8  | おっかがる    | 寄りかかる          |
| 9  | かっくらす    | 殴る             |
| 10 | きーだ      | 困った            |
| 11 | きしよ      | くそー、ちくしょう      |
| 12 | ごじゃっぺ    | 分からずや、バカ、いいかげん |
| 13 | こわい      | 疲れた            |
| 14 | じゃーぼ     | 葬式             |
| 15 | しゃーねー    | 仕方ない           |

|    | 茨城弁 (方言)     | 意味                  |
|----|--------------|---------------------|
| 16 | だす           | あげる                 |
| 17 | ちく (ちぐ)      | 嘘                   |
| 18 | ちょーろぐ        | 満足、十分、まとも           |
| 19 | ちーんと         | 少し                  |
| 20 | つこでる         | 落ちる                 |
| 21 | でれすけ         | バカ (ごじゃっぺとほぼ同義)     |
| 22 | てんぼろ         | うっかり物を手から落とすこと      |
| 23 | のざく          | 吐く、吐きそうになる          |
| 24 | はー           | もう                  |
| 25 | ぶちかる         | 座る、腰を下ろす            |
| 26 | ぶっくらす        | 殴る                  |
| 27 | ぶっちゃす        | つぶす                 |
| 28 | まっと          | もっと                 |
| 29 | むじゃっぼ (べ) ねー | 荒々しい、物を粗末にする        |
| 30 | むすい          | 長持ちする、減りが遅い         |
| 31 | 〇〇め          | 猫め、犬め、蚊んめ等動物の語尾につける |
| 32 | 〇〇めど         | 穴 (ケツめど、鼻めど等)       |
| 33 | やーこい         | やわらかい               |
| 34 | よっばら         | 十分に                 |
| 35 | んだけんと        | だが、だけれども            |
| 36 | んで           | それで、それだから           |



茨城の方言、あなたはどれくらい  
知っていますか？使っていますか？

| 茨城の方言   | 知っている | 使っている |
|---------|-------|-------|
| ① あーたに  |       |       |
| ② あおなじみ |       |       |
| ③ いぎもねー |       |       |
| ④ いしこい  |       |       |
| ⑤ いじゃげる |       |       |
| ⑥ いしゃる  |       |       |
| ⑦ うっちゃる |       |       |
| ⑧ おっかがる |       |       |
| ⑨ かっくらす |       |       |
| ⑩ きーだ   |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

- /10代未満 ●/10～20代 ●/30～40代  
●/50～60代 ●/70～80代 ●90代以上

| 茨城の方言    | 知っている | 使っている |
|----------|-------|-------|
| ⑪ きしよ    |       |       |
| ⑫ ごじゃっぺ  |       |       |
| ⑬ こわい    |       |       |
| ⑭ じゃーぼ   |       |       |
| ⑮ しゃーねー  |       |       |
| ⑯ だす     |       |       |
| ⑰ ちく(ちぐ) |       |       |
| ⑱ ちょーろぐ  |       |       |
| ⑲ ちーんと   |       |       |
| ⑳ つこでる   |       |       |
| ㉑ でれすけ   |       |       |
| ㉒ てんぼろ   |       |       |
| ㉓ のざく    |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

- /10代未満 ●/10～20代 ●/30～40代  
●/50～60代 ●/70～80代 ●90代以上



| 茨城の方言        | 知っている | 使っている |
|--------------|-------|-------|
| ㉔ はー         |       |       |
| ㉕ ぶちかる       |       |       |
| ㉖ ぶっくらす      |       |       |
| ㉗ ぶっちゃす      |       |       |
| ㉘ まっと        |       |       |
| ㉙ むじやっぼ(べ)ねー |       |       |
| ㊱ むすい        |       |       |
| ㊲ 〇〇め        |       |       |
| ㊳ 〇〇めど       |       |       |
| ㊴ やーこい       |       |       |
| ㊵ よっぱら       |       |       |
| ㊶ んだけんと      |       |       |
| ㊷ んで         |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

●/10代未満   ●/10~20代   ●/30~40代

●/50~60代   ●/70~80代   ●90代以上

## 7. 石岡地方の方言

ここでは、石岡地方で知られる方言についてご紹介します。みなさんは、どのくらいご存じで、普段生活の中でどのくらい使っていますか？

|    | 石岡地方の方言 | 意味        |
|----|---------|-----------|
| 1  | あんべわるい  | 身体の具合が悪い  |
| 2  | いがい     | 大きい       |
| 3  | いぎぼえ    | 勢い、元気     |
| 4  | いし      | あなた、おまえ   |
| 5  | いじかむ    | 意思を強く持って  |
| 6  | いっちょく   | 入れておく     |
| 7  | いまっと    | もっと       |
| 8  | うすうす    | うろちょろ歩くさま |
| 9  | おせる     | 教える       |
| 10 | おっち     | みそ汁       |
| 11 | おにんこ    | おにぎり      |
| 12 | おらじ     | 自宅        |
| 13 | おれがな    | 自分の物      |
| 14 | かだす     | 片付ける      |
| 15 | がんどねご   | 野良猫       |
| 16 | きかんぼ    | わんぱく坊主    |



|    | 石岡地方の方言   | 意味           |
|----|-----------|--------------|
| 17 | げろっば      | 吐く、おう吐物      |
| 18 | 〜くろ       | 〜下さい         |
| 19 | ごーせ       | 力強い、乱暴       |
| 20 | こったんねー    | 頭が悪い         |
| 21 | しこたれ      | だらしない、みっともない |
| 22 | しょうどもねー   | 仕方がない        |
| 23 | つらめる      | つかまえる        |
| 24 | でーじん (どん) | 資産家またはその家    |
| 25 | ですばぎ      | でしゃばり        |
| 26 | とごろか      | 大雑把に、いいかげんに  |
| 27 | とっけす      | 取り返す         |
| 28 | とぼ        | 戸            |
| 29 | のがう       | 拭う           |
| 30 | のんのさま     | 仏様           |
| 31 | ぼっこす      | 壊す           |
| 32 | へでもねー     | 簡単、つまらない     |
| 33 | まち        | 祭り           |
| 34 | みどもねー     | 外聞悪い         |
| 35 | よがろさま     | お人好し         |
| 36 | わすら       | いたずら         |

石岡地方の方言、あなたはどれくらい  
知っていますか？使っていますか？

| 石岡地方の方言  | 知っている | 使っている |
|----------|-------|-------|
| ① あんべわるい |       |       |
| ② いかい    |       |       |
| ③ いきぼえ   |       |       |
| ④ いし     |       |       |
| ⑤ いじかむ   |       |       |
| ⑥ いっちよく  |       |       |
| ⑦ いまっと   |       |       |
| ⑧ うすうす   |       |       |
| ⑨ おせる    |       |       |
| ⑩ おっち    |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

- /10代未満    ●/10~20代    ●/30~40代  
●/50~60代    ●/70~80代    ●90代以上



| 石岡地方の方言   | 知っている | 使っている |
|-----------|-------|-------|
| ⑪ おにんこ    |       |       |
| ⑫ おらじ     |       |       |
| ⑬ おれがな    |       |       |
| ⑭ かだす     |       |       |
| ⑮ がんどねご   |       |       |
| ⑯ きかんぼ    |       |       |
| ⑰ げろっぱ    |       |       |
| ⑱ ～くる     |       |       |
| ⑲ ごーせ     |       |       |
| ⑳ こったんねー  |       |       |
| ㉑ しこたれ    |       |       |
| ㉒ しょうどもねー |       |       |
| ㉓ つらめる    |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

- /10代未満   ●/10～20代   ●/30～40代
- /50～60代   ●/70～80代   ●90代以上

| 石岡地方の方言    | 知っている | 使っている |
|------------|-------|-------|
| ㉔ でーじん(どん) |       |       |
| ㉕ ですばぎ     |       |       |
| ㉖ とごろか     |       |       |
| ㉗ とっけす     |       |       |
| ㉘ とぼ       |       |       |
| ㉙ のがう      |       |       |
| ㉚ のんのさま    |       |       |
| ㉛ ぼっこす     |       |       |
| ㉜ へでもねー    |       |       |
| ㉝ まち       |       |       |
| ㉞ みどもねー    |       |       |
| ㉟ よがろさま    |       |       |
| ㊱ わすら      |       |       |

※該当する箇所に、○シールを貼付けてください。

- /10代未満   ●/10～20代   ●/30～40代
- /50～60代   ●/70～80代   ●90代以上



## 8. 方言のゆくえ

標準語が制定されると、方言は恥ずかしいもの、正しい言葉ではないものと誤解されるようになった時代がありました。しかし、方言は地域コミュニケーションにおける重要なツールであり、時には標準語よりも素早く自分の気持ちを伝え、相手の心を読み取るうえで有効な言語手段であると思います。

現代の私たちは、どのくらいの頻度で方言を使用しているのでしょうか。関西の人たちが関西弁を話すことは、日常茶飯事でしょう。茨城の方言、石岡の方言はというと、見当が付きません。方言を知ってはいるが使わない、知らないから使えない、という二つの理由があると思います。前者は方言の継承に消極的で、後者は継承の機会さえ与えられていないと推測できることから、両者の間にいわば悪循環が生じているのかもしれない。方言の使用頻度は、中高年層よりも若者、そして男性よりも女性の方が低い傾向にあるのではないのでしょうか。

しかし、喜怒哀楽を率直に表現する方法として、今、方言を見直すべきなのではないのでしょうか。少なくとも家族間では、豊富な方言を知り伝えていくことでコミュニケーションを高めることができるのではないかと思います。

今回の企画展では、方言をテーマとして、その歴史や文化を紹介してきました。方言は、その地域特有の形のない文化遺産であると言えるでしょう。同様に地名もその土地に残された、貴重な無形文化遺産です。地名は、字名として残ったり、文字で表記されることもありますが、方言は、代々口伝え（音）で継承されてきたという点で地名とは異なるのです。仮に、明日から誰も方言を使うことがなくなれば、地域の方言はすべて死語となり、過去に置き去りにされてしまうでしょう。

こうしたことから、地域の方言を活語として次世代へ継承していくためには、私たち市民一人ひとりが文化継承の担い手になる必要があります。

私たちの文化は、私たちが守っていかなければならないのです。



石岡市立ふるさと歴史館 第17回企画展

ごじゃっぺ・いがっぺ・そうだっぺ

－茨城弁と石岡地方の方言－

平成31年2月7日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195

茨城県石岡市柿岡5680番地1

TEL 0299-43-1111(代)

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016

茨城県石岡市総社一丁目2番10号

TEL 0299-23-2398